

第 165 回エイズ動向委員会
HIV 感染症に関する NDB 集計
(2025 年 9 月度)

関西医科大学 医学部 メディカルデータサイエンス講座

教授 野田 龍也

(エイズ動向委員会委員)

- この集計について

匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）は国民皆保険制度を有する我が国における保険診療の全数調査であり、生活保護の医療扶助や感染症法に基づく公費医療などを除く、1億2千万人の医療受療状況のデータがほぼすべて格納されている。NDBは病院だけでなく、診療所のデータも取得されており、適切な名寄せを行うことで、医療機関や都道府県をまたいだ受診を匿名のまま追跡することもできる。このようにNDBは既存の集計値にはない強み（全国悉皆性）を有するため、既存統計と補完的に用いることで精緻な実態把握が可能となる。

HIV感染症の患者数等については、拠点病院調査や感染症法の届出などに基づく集計があり、長年活用されている。本提出資料は、NDBを用いて従来調査と同様の集計を並行的に行い、従来調査を裏打ちすることを目的としており、第153回エイズ動向委員会（2019年8月）より継続してNDB集計資料を提出している。

今回提出資料から、集計に利用するNDBが更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となった。そのため、全体的に、集計結果が7,8%前後、上振れしている。

本提出資料は、NDBデータの更新に合わせてエイズ動向委員会向けの集計を更新し、第165回エイズ動向委員会（2025年9月）提出資料としたものである。HIV感染症に関するさまざまな動向のうち、主要な3つの疫学指標（現在患者数（有病）、新規患者数（罹患））についてNDBによる集計を示し、解説を付した。なお、本資料では、特に記載がない限り、「抗HIV薬の処方を受けている患者」を「HIV感染者・エイズ患者」と表記している。

NDBには、患者数1～9人の数値（例：1人、8人）や、逆算により1～9人を算出できる数値（48人－40人＝8人）を公表してはならないという規制がある（たとえば、上記の下線部は公表不可）。本資料においては、該当部分に「1～9」「非表示」といった秘匿措置表記を施している。その他の留意点は、表の要点及び注釈に示した。

なお、データベースにおける名寄せの特性上、NDBデータの更新ごとにID0数（患者数）にわずかな揺れが生じるが、結果の解釈には影響しない範囲の揺れである。

本提出資料は、厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究」（2023年度～、代表：奈良県立医科大学・野田 龍也）の一環として作成された。集計に当たっては株式会社三菱総合研究所の技術協力を得るとともに、名古屋医療センター・横幕能行先生・今橋真弓先生、HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究班（代表・千葉大学医学部附属病院・谷口俊文）からの助言をいただいた。

提出表一覧

- 表 1 抗 HIV 薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)(年齢階級別)
- 表 2 抗 HIV 薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)(都道府県別)
- 表 3 新規に投薬を開始された患者数(2022 年)(年齢階級別)
- 表 4 新規に投薬を開始された患者数(2022 年)(都道府県別、ルックバック期間別)
- 表 5 HIV 感染者・エイズ患者(累積患者数)
- 表 6 新規に投薬を開始された患者数(2022 年第 4 四半期)(年齢階級別)
- 表 7 都道府県別・ブロック別患者数(2022 年第 4 四半期新規及び累積患者数)
- 表 8 抗 HIV 薬一覧(マスタ)

要点：表 1

● 表 1 抗 HIV 薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数） （年齢階級別）

HIV 感染者・エイズ患者数について、エイズ動向委員会では調査開始時からの累積患者数が集計されているが、受診中断や死亡による脱落が織り込まれない点が課題である。本表は、全国悉皆の受診情報である NDB の特性を活かし、「現時点において受診している患者数」（現在継続的に投薬を受けている患者数）を算出したものである。なお、同一患者が複数医療機関や複数都道府県にまたがって受診した場合の名寄せは完了済みである。

NDB による現在通院患者数の把握方法としては、下記の A,B の両方の期間に抗 HIV 薬が処方されている患者とした：

- A) 2019 年（令和元年）12 月 1 日～2022 年（令和 4 年）11 月 30 日の 3 年間
- B) 2022 年（令和 4 年）12 月 1 日～2023 年（令和 5 年）3 月 31 日の 4 ヶ月間

過去の一定期間（期間 A）に抗 HIV 薬が処方され、直近（期間 B）にも抗 HIV 薬の処方がある場合を対象とすることにより、最近を受診していない患者や最近になって単発で処方を受けたのみの患者を除外している。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在通院患者数であり、2022 年 12 月～2023 年 3 月の 4 ヶ月間の時点で、通院して処方を受けている HIV 感染者・エイズ患者は、全国で 28666 人（男性 26779 人、女性 1887 人）であった。また、年齢階級別では、全体、性別ともに 45～49 歳が最多であり、その前後は逡減している。

なお、受診間隔に関する臨床的な検討を行い、最近受診の定義（期間 B）について、第 157 回提出資料以降、1 年 3 ヶ月間から 4 ヶ月間へ短縮している。また、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。そのため、全額公費医療が含まれない集計に比べて、集計結果が 7,8%前後、上振れしている。

(表1) 抗HIV薬処方患者数

(現在継続的に投薬を受けている患者数) (年齢階級別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数）の集計（年齢階級別）（追跡中の抗HIV薬処方患者）		
	合計	男	女
合計	28,666	26,779	1,887
0歳	0	0	0
1歳	0	0	0
2歳	0	0	0
3歳	0	0	0
4歳	<10	<10	0
5歳	<10	0	<10
6歳	<10	<10	0
7歳	0	0	0
8歳	0	0	0
9歳	<10	<10	0
10-14歳	<10	<10	<10
15-19歳	<10	<10	<10
20-24歳	239	230程度	<10
25-29歳	1,061	1,017	44
30-34歳	2,167	2,101	66
35-39歳	3,119	2,966	153
40-44歳	3,829	3,584	245
45-49歳	4,984	4,668	316
50-54歳	4,689	4,356	333
55-59歳	3,236	2,961	275
60-64歳	1,926	1,768	158
65-69歳	1,342	1,232	110
70-74歳	1,196	1,119	77
75-79歳	542	488	54
80-84歳	240	210	30
85-89歳	67	60程度	<10
90-94歳	17	10程度	<10
95-99歳	0	0	0
100歳以上	0	0	0

●集計値1～9については「<10」としている。

●「2019年12月1日～2022年11月30日」と「2022年12月1日～2023年3月31日」の両方に抗HIV薬が処方された患者

●年齢は最後の医療保険使用時の年齢階級を使用。

●抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。

●1～9の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 2

- 表 2 抗 HIV 薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数）
（都道府県別）

本表は、現在継続的に投薬を受けている HIV 感染者・エイズ患者を都道府県別に算出したものである。患者数の把握方法は表 1 と同様である。

なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」（受診地）であり、患者住所地ではない点に注意が必要である。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在継続通院患者数であり、東京都の 11088 人が最多、大阪府の 3578 人がそれに次ぐ。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表2) 抗HIV薬処方患者数

(現在継続的に投薬を受けている患者数) (都道府県別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数）の集計（都道府県別）（追跡中の抗HIV薬処方患者）		
	合計	男	女
全国	28,666	26,779	1,887
北海道	602	578	24
青森県	97	90程度	<10
岩手県	51	50程度	<10
宮城県	241	222	19
秋田県	44	40程度	<10
山形県	41	40程度	<10
福島県	102	87	15
茨城県	371	312	59
栃木県	360	301	59
群馬県	281	244	37
埼玉県	621	561	60
千葉県	966	819	147
東京都	11,088	10,523	565
神奈川県	1,665	1,499	166
新潟県	125	112	13
富山県	77	70程度	<10
石川県	127	117	10
福井県	63	50程度	<10
山梨県	81	63	18
長野県	284	211	73
岐阜県	167	153	14
静岡県	443	393	50
愛知県	1,681	1,561	120
三重県	175	143	32
滋賀県	150	134	16
京都府	420	401	19
大阪府	3,578	3,462	116
兵庫県	828	786	42
奈良県	168	151	17
和歌山県	95	90程度	<10
鳥取県	36	40程度	<10
島根県	34	30程度	<10
岡山県	260	245	15
広島県	356	338	18
山口県	103	100程度	<10
徳島県	69	60程度	<10
香川県	126	120程度	<10
愛媛県	133	130程度	<10
高知県	82	80程度	<10
福岡県	1,153	1,104	49
佐賀県	59	60程度	<10
長崎県	111	100程度	<10
熊本県	227	215	12
大分県	107	107	0
宮崎県	139	140程度	<10
鹿児島県	193	190程度	<10
沖縄県	486	469	17

- 都道府県は受診医療機関住所（受診地）
- 抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。
- 「2019年12月1日～2022年11月30日」と「2022年12月1日～2023年3月31日」の両方にレセプトが発生した患者のうち、抗HIV薬が処方された患者。
- 集計値1～9については「<10」としている。
- 1～9の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 3

● 表 3 新規に投薬を開始された患者数（2022 年）（年齢階級別）

2022 年（令和 4 年）1 月～12 月の 1 年間に、新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数を示した。NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。

データベースにおける新規受診の把握は、「一定のルックバック期間（今回は 8 年 9 ヶ月間）において抗 HIV 薬の処方を受けず、集計対象期間の 1 年間（今回は 2022 年）になって抗 HIV 薬を処方された患者」とした。この定義では、過去に抗 HIV 薬の処方を受けていた患者が 8 年 9 ヶ月以上ぶりに処方を再開された場合は新規患者に誤分類されるが、その数は少ないという臨床的な前提を置いている（表 4 で検証）。なお、本集計では新規に HIV/AIDS と診断されたが抗 HIV 薬の処方を受けずに経過観察とされた患者は集計されない点に注意が必要である。

NDB で集計した新規処方開始者（新規患者）数は 1705 人であり、感染症法による届出数 884 人に比べ、1.9 倍であった。年齢階級別の集計では、NDB 集計と感染症法届出との乖離は 1.7～2.8 倍であった。なお、NDB は感染経路や感染地域の情報を持たない。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表3) 新規に投薬を開始された患者数
(2022年) (年齢階級別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数（新規） 〔令和4年（2022年）1月1日～令和4年（2022年）12月31日〕 H I V感染者・エイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔令和4年（2022年）1月1日～令和4年（2022年）12月31日〕 H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

診断区分				
		NDBによる患者数	感染症法の届出数	NDBによる患者数/ 感染症法の届出数
合計		1,705	884	1.9
感染経路	異性間の性的接触	・	153	・
	同性間の性的接触※1	・	570	・
	静注薬物使用	・	1	・
	母子感染	・	1	・
	その他※2	・	46	・
	不明	・	113	・
年齢	10歳未満	<10	1	非表示
	10～19歳	<10	9	非表示
	20～29歳	392	236	1.7
	30～39歳	566	307	1.8
	40～49歳	395	183	2.2
	50～59歳	215	93	2.3
	60～69歳	100	40	2.5
	70歳以上	27	15	1.8
	不明	0	0	非表示
性	男	1,598	846	1.9
	女	107	38	2.8
感染地域	国内	・	691	・
	海外	・	64	・
	不明	・	129	・

- 年齢は最終受診時の年齢
- NDB：2022年1月～12月の1年間の新規に投薬を開始された患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計
2013年4月1日から2021年12月31日の8年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ
2022年1月1日から2022年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。
- 新規に投薬を開始された患者のほか、2013年4月以前に処方があった後、長期中断後に抗HIV薬の処方を再開した者を含む。
- 抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。
- 集計値1～9については「<10」としている。
- その他のマスキング対象箇所については「非表示」としている。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。

※1 両性間性的接触を含む。

※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

要点：表 4

- 表 4 新規に投薬を開始された患者数（2022 年）（都道府県別、ルックバック期間別）

2022 年（令和 4 年）1 月～12 月の 1 年間に、新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数を都道府県別に示した。NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」（受診地）であり、患者住所地ではない。「新規処方」の定義は表 3 と同様である。

抗 HIV 薬の処方を確認されていない期間（集計上のルックバック期間）の設定による患者数の変化を確認するため、参考値としてルックバック期間を短くした場合の集計結果を下の欄に示した。

NDB で集計した新規処方開始者（新規患者）数がもっとも多かったのは東京都の 569 人であり、大阪府の 176 人が続いた。都道府県別に見ても、感染症法届出数との比率は類似の傾向が示された。

ルックバック期間を短くするほど NDB による集計数が増加しており、これは数年間を経ての再受診者の存在を示している。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表4) 新規に投薬を開始された患者数
(2022年) (都道府県別、ルックバック期間別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数（新規） 〔令和4年（2022年）1月1日～令和4年（2022年）12月31日） H I V感染者・エイズ患者の性別、年齢別集計の合計値
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔令和4年（2022年）1月1日～令和4年（2022年）12月31日） H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

HIV感染者・エイズ患者

	感染症法の届出数 (2022年)	NDBによる患者数 (2022年)	† NDBによる患者数 (2021年)	† NDBによる患者数 (2020年)	† NDBによる患者数 (2019年)	† NDBによる患者数 (2018年)
ルックバック期間	-	8年	7年	6年	5年	4年
合計	884	1705	1885	2096	2216	2200
北海道	24	38	43	49	49	46
青森県	2	<10	<10	<10	<10	<10
岩手県	0	<10	<10	<10	<10	<10
宮城県	12	16	15	18	23	12
秋田県	0	<10	<10	<10	<10	0
山形県	2	<10	<10	<10	<10	<10
福島県	8	12	12	<10	<10	12
茨城県	16	26	28	27	24	29
栃木県	11	23	33	31	25	30
群馬県	11	24	23	23	25	23
埼玉県	27	57	57	51	42	39
千葉県	26	59	87	75	91	75
東京都	288	569	669	761	802	763
神奈川県	38	102	121	131	140	150
新潟県	7	12	<10	10	12	11
富山県	3	<10	<10	<10	<10	<10
石川県	2	<10	<10	<10	<10	<10
福井県	7	<10	<10	<10	<10	<10
山梨県	14	<10	<10	14	<10	<10
長野県	4	13	14	20	22	19
岐阜県	69	<10	19	13	13	21
静岡県	2	34	31	35	37	44
愛知県	2	103	122	136	146	139
三重県	3	14	20	15	18	18
滋賀県	5	<10	13	12	18	15
京都府	4	17	23	38	30	42
大阪府	91	176	181	212	260	265
兵庫県	24	63	59	70	58	56
奈良県	8	<10	<10	<10	<10	<10
和歌山県	2	<10	<10	<10	<10	<10
鳥取県	1	<10	<10	<10	<10	<10
島根県	3	<10	<10	<10	<10	<10
岡山県	6	15	17	18	21	31
広島県	15	28	22	26	28	24
山口県	7	<10	<10	11	<10	14
徳島県	3	<10	<10	<10	<10	<10
香川県	4	<10	<10	12	11	14
愛媛県	4	<10	<10	10	<10	10
高知県	6	<10	<10	<10	<10	11
福岡県	63	98	93	94	100	109
佐賀県	4	<10	<10	<10	12	<10
長崎県	2	<10	<10	<10	15	<10
熊本県	16	25	14	20	18	19
大分県	6	<10	<10	14	12	15
宮崎県	4	12	<10	10	<10	11
鹿児島県	10	17	12	17	20	18
沖縄県	18	39	35	41	43	42

●都道府県は受診医療機関住所地（受診地）
●年齢は最終受診時の年齢。
●NDB：2022年1月～12月の1年間の新規に投薬を開始された患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計
2013年4月1日から2021年12月31日の8年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ
2022年1月1日から2022年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。
●新規に投薬を開始された患者のほか、ルックバック期間中に処方が行われず、その後、抗HIV薬の処方を再開した者を含む。
●ルックバック期間：NDB上で新規処方を把握するために設定された無処方期間。
●抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。
●集計値1～9については「<10」としている。
†はルックバック期間が短いため、処方再開患者を一定数含んでおり、参考値。

要点：表 5

● 表 5 HIV 感染者・エイズ患者（累積患者数）

本表は HIV 感染者・エイズ患者の累積患者数及びその感染経路に関する集計である。
表の右半分は、感染症法に基づく届出による既存集計である。

NDB による集計は、2013 年（平成 25 年）4 月 1 日～2022 年（令和 4 年）12 月 31 日の 9 年 9 ヶ月間に抗 HIV 薬の処方を受けた累積患者数である。NDB には感染経路に関する情報が収載されていないため、全体の患者数以外のほぼすべての箇所が不明（「・」）となっている。

NDB 集計による累積患者数（9 年 9 ヶ月間）は、合計で 38166 人となり、感染症法届出の累積患者数 34407 人に近い集計値であった。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表5)HIV感染者・エイズ患者（累積患者数）

		NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数情報 令和4年（2022年）12月31日現在のH I V感染者 及びエイズ患者の性別患者数									感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 令和4年（2022年）12月25日現在のH I V感染者 及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計								
診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計			日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H I V 感 染 者	合計	・	・	・	・	・	・	・	・	・	18,927	1,067	19,994	2,318	1,544	3,862	21,245	2,611	23,856
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	3,375	867	4,242	540	912	1,452	3,915	1,779	5,694
	同性間の性的接触※ 1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	13,528	5	13,533	1,121	1	1,122	14,649	6	14,655
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	47	2	49	31	4	35	78	6	84
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	18	10	28	8	9	17	26	19	45
	その他※ 2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	461	42	503	101	34	135	562	76	638
	不明	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,498	141	1,639	517	584	1,101	2,015	725	2,740
エ イ ズ 患 者	合計※ 3	・	・	・	・	・	・	・	・	・	8,538	440	8,978	1,115	458	1,573	9,653	898	10,551
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2,470	288	2,758	340	252	592	2,810	540	3,350
	同性間の性的接触※ 1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	4,282	3	4,285	253	2	255	4,535	5	4,540
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	33	4	37	29	3	32	62	7	69
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10	3	13	1	6	7	11	9	20
	その他※ 2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	290	26	316	40	18	58	330	44	374
H I V感染者+エイズ患者 合計		・	・	・	・	・	・	35,373	2,793	38,166	27,465	1,507	28,972	3,433	2,002	5,435	30,898	3,509	34,407
凝固因子製剤による感染者※ 4		・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,422	18	1,440	－	－	－	1,422	18	1,440

- 感染症法の太枠は、2022年12月25日の時点でのHIV感染者・エイズ患者の累計。
- 2013年4月1日～2022年12月31日にレセプトが発生し抗HIV薬が処方された患者。
- 抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。

※ 1 両性間性的接触を含む。

※ 2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

※ 3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。

※ 4 「血液凝固異常症全国調査」による2022年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数	
感染症法施行後の任意報告数	
（平成11年（1999年）4月1日～令和4年（2022年）12月31日）	479 名
エイズ予防法※ 5 に基づく法定報告数	
（平成元年（1989年）2月17日～平成11年（1999年）3月31日）	596 名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数※ 6	739 名

※ 5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。

※ 6 「血液凝固異常症全国調査」による2022年5月31日現在の報告数

要点：表 6

● 表 6 新規に投薬を開始された患者数（2022 年第 4 四半期）（年齢階級別）

2022 年（令和 4 年）10 月～12 月の 3 ヶ月間に、新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数を示した。NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。

新規処方の定義は表 3 と類似である。ルックバック期間は 9 年 6 ヶ月間と長くなっており、新規受診の集計期間が 3 ヶ月間と短くなっている。

HIV に関する集計は 3 ヶ月単位で報告されることがあるが、3 ヶ月単位での新規患者数集計を NDB で行うと集計値が小さくなるためマスキングが多く発生し、参照可能な集計値を十分に公表できないことが予想される。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表6) 新規に投薬を開始された患者数（2022年第4四半期）（年齢階級別）

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数（新規） 〔令和4年（2022年）10月1日～令和4年（2022年）12月31日〕 H I V感染者・エイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくH I V感染者・エイズ患者情報 〔令和4年（2022年）9月26日～令和4年（2022年）12月25日〕 H I V感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

診断区分		計		男		女	
		NDBによる 患者数	感染症法の 届出	NDBによる 患者数	感染症法の 届出	NDBによる 患者数	感染症法の 届出
合計		416	220	387	213	29	7
感染経路	異性間の性的接触	・	32	・	27	・	5
	同性間の性的接触※ 1	・	152	・	152	・	0
	静注薬物使用	・	0	・	0	・	0
	母子感染	・	0	・	0	・	0
	その他※ 2	・	10	・	10	・	0
	不明	・	26	・	24	・	2
年齢	1 0 歳未満	0	0	0	0	0	0
	1 0 ～ 1 9 歳	<10	1	<10	1	<10	0
	2 0 ～ 2 9 歳	102	66	100程度	65	<10	1
	3 0 ～ 3 9 歳	149	82	140程度	81	<10	1
	4 0 ～ 4 9 歳	93	44	90程度	42	<10	2
	5 0 ～ 5 9 歳	33	12	30程度	11	<10	1
	6 0 ～ 6 9 歳	31	12	20程度	10	<10	2
	7 0 歳以上	<10	3	<10	3	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0
感染地域	国内	・	175	・	172	・	3
	海外	・	16	・	14	・	2
	不明	・	29	・	27	・	2

※ 1 両性間性的接触を含む。

※ 2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

- NDB集計：2022年10月～12月の新規（抗HIV薬処方開始）患者
2013年4月1日から2022年09月30日までに抗HIV薬を処方されていない
かつ2022年10月1日から2022年12月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。
- 年齢は最後の医療保険使用時の年齢階級を使用。
- 抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。
- 集計値1～9については「<10」としている。
- 1～9の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 7

● 表 7 都道府県別・ブロック別患者数（2022 年第 4 四半期新規及び累積患者数）

以下の 2 つについて、都道府県別・ブロック別患者数を示した：

- ・ 2022 年（令和 4 年）10 月～12 月の 3 ヶ月間（第 4 四半期）に新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数
- ・ 2013 年（平成 25 年）4 月 1 日～2022 年（令和 4 年）12 月 31 日の 9 年 9 ヶ月間に抗 HIV 薬の処方を受けた累積患者数を都道府県別に示した。

NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。新規処方の定義は表 6 と同様である。

新規患者の集計は、集計期間が短く、集計値が都道府県に分割されるため、NDB 集計値の多くが 10 未満のマスキング対象となっている。

なお、今回提出資料から、集計に利用する NDB が更新され、全額公費医療（代表例は、生活保護における医療扶助）を受けている患者が集計対象となっている。

(表7) 都道府県別・ブロック別患者数（2022年第4四半期新規及び累積患者数）

NDB	H I V 感染者・エイズ患者集計 新規・累積（都道府県別集計） 〔令和4年（2022年）10月1日～令和4年（2022年）12月31日〕																
	感染症法に基づく H I V 感染者・エイズ患者情報 H I V 感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況 〔令和4年（2022年）9月26日～令和4年（2022年）12月25日〕																
ブロック名	都道府県名	今回新規（2022年10月～12月）				前回新規（2022年7月～9月）				累計（感染症法は1985年～、NDBは2013年4月～2022年12月）							
		報告地		（居住地）		報告地		（居住地）		報告地		（居住地）		報告地率		（居住地率）	
		NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法	NDB	感染症法
北海道	1 北海道	<10	4	・	(3)	10	6	・	(4)	771	644	・	(421)	2.0%	1.9%	・	(2.2%)
	2 青森県	<10	0	・	(0)	<10	1	・	(2)	135	112	・	(57)	0.4%	0.3%	・	(0.3%)
東北	3 岩手県	0	0	・	(0)	0	0	・	(0)	68	75	・	(33)	0.2%	0.2%	・	(0.2%)
	4 宮城県	<10	3	・	(2)	<10	2	・	(2)	325	293	・	(173)	0.9%	0.9%	・	(0.9%)
	5 秋田県	0	0	・	(0)	0	0	・	(0)	53	53	・	(27)	0.1%	0.2%	・	(0.1%)
	6 山形県	0	0	・	(0)	<10	1	・	(1)	61	66	・	(31)	0.2%	0.2%	・	(0.2%)
	7 福島県	<10	1	・	(2)	<10	1	・	(1)	143	169	・	(106)	0.4%	0.5%	・	(0.6%)
東北ブロック計		<10	4	・	(4)	<10	5	・	(6)	785	768	・	(427)	2.1%	2.2%	・	(2.2%)
関東 甲信越	8 茨城県	<10	1	・	(1)	<10	4	・	(6)	536	949	・	(319)	1.4%	2.8%	・	(1.7%)
	9 栃木県	<10	4	・	(1)	10	0	・	(0)	505	518	・	(184)	1.3%	1.5%	・	(1.0%)
	10 群馬県	<10	3	・	(2)	<10	2	・	(0)	420	418	・	(192)	1.1%	1.2%	・	(1.0%)
	11 埼玉県	16	12	・	(17)	<10	8	・	(10)	842	1,079	・	(890)	2.2%	3.1%	・	(4.6%)
	12 千葉県	21	6	・	(9)	11	7	・	(8)	1,337	1,573	・	(865)	3.5%	4.6%	・	(4.5%)
	13 東京都	147	81	・	(58)	147	63	・	(44)	14,557	11,465	・	(5,319)	38.1%	33.4%	・	(27.8%)
	14 神奈川県	23	11	・	(11)	29	9	・	(9)	2,324	2,290	・	(1,264)	6.1%	6.7%	・	(6.6%)
	15 新潟県	<10	2	・	(2)	<10	1	・	(1)	173	186	・	(89)	0.5%	0.5%	・	(0.5%)
	16 山梨県	<10	1	・	(1)	<10	1	・	(1)	117	189	・	(69)	0.3%	0.6%	・	(0.4%)
関東・甲信越ブロック計		233	121	・	(102)	223	95	・	(79)	21,196	19,229	・	(9,357)	55.5%	56.0%	・	(48.9%)
北陸	18 富山県	<10	0	・	(0)	<10	1	・	(0)	95	99	・	(57)	0.2%	0.3%	・	(0.3%)
	19 石川県	<10	0	・	(0)	<10	2	・	(2)	174	145	・	(88)	0.5%	0.4%	・	(0.5%)
	20 福井県	0	0	・	(0)	<10	1	・	(1)	78	90	・	(56)	0.2%	0.3%	・	(0.3%)
北陸ブロック計		<10	0	・	(0)	<10	4	・	(3)	347	334	・	(201)	0.9%	1.0%	・	(1.0%)
東海	21 岐阜県	<10	3	・	(3)	<10	2	・	(3)	233	372	・	(290)	0.6%	1.1%	・	(1.5%)
	22 静岡県	<10	2	・	(2)	<10	4	・	(3)	643	751	・	(346)	1.7%	2.2%	・	(1.8%)
	23 愛知県	<10	16	・	(16)	30	14	・	(12)	2,266	2,210	・	(1,475)	5.9%	6.4%	・	(7.7%)
	24 三重県	<10	0	・	(0)	<10	1	・	(1)	274	300	・	(175)	0.7%	0.9%	・	(0.9%)
東海ブロック計		21	21	・	(21)	46	21	・	(19)	3,416	3,633	・	(2,286)	9.0%	10.6%	・	(11.9%)
近畿	25 滋賀県	<10	1	・	(2)	<10	1	・	(0)	210	193	・	(120)	0.6%	0.6%	・	(0.6%)
	26 京都府	<10	1	・	(2)	<10	2	・	(3)	566	444	・	(278)	1.5%	1.3%	・	(1.5%)
	27 大阪府	42	20	・	(15)	43	22	・	(20)	4,616	3,995	・	(2,435)	12.1%	11.6%	・	(12.7%)
	28 兵庫県	<10	5	・	(3)	17	4	・	(3)	1,101	819	・	(611)	2.9%	2.4%	・	(3.2%)
	29 奈良県	<10	0	・	(0)	<10	2	・	(1)	207	217	・	(132)	0.5%	0.6%	・	(0.7%)
	30 和歌山県	<10	1	・	(0)	0	0	・	(0)	123	133	・	(68)	0.3%	0.4%	・	(0.4%)
近畿ブロック計		63	28	・	(22)	70	31	・	(27)	6,823	5,801	・	(3,644)	17.9%	16.9%	・	(19.0%)
中国 四国	31 鳥取県	0	0	・	(0)	0	0	・	(0)	51	44	・	(31)	0.1%	0.1%	・	(0.2%)
	32 島根県	<10	1	・	(1)	0	1	・	(1)	51	39	・	(24)	0.1%	0.1%	・	(0.1%)
	33 岡山県	<10	1	・	(3)	<10	1	・	(1)	344	303	・	(204)	0.9%	0.9%	・	(1.1%)
	34 広島県	11	6	・	(4)	<10	4	・	(4)	475	421	・	(282)	1.2%	1.2%	・	(1.5%)
	35 山口県	0	0	・	(0)	<10	4	・	(2)	130	120	・	(89)	0.3%	0.3%	・	(0.5%)
	36 徳島県	<10	0	・	(0)	<10	2	・	(2)	90	94	・	(72)	0.2%	0.3%	・	(0.4%)
	37 香川県	<10	1	・	(1)	<10	1	・	(1)	167	140	・	(107)	0.4%	0.4%	・	(0.6%)
	38 愛媛県	<10	1	・	(1)	<10	1	・	(1)	167	167	・	(92)	0.4%	0.5%	・	(0.5%)
	39 高知県	<10	3	・	(3)	0	2	・	(1)	109	96	・	(72)	0.3%	0.3%	・	(0.4%)
中国・四国ブロック計		28	13	・	(13)	14	16	・	(13)	1,584	1,424	・	(973)	4.2%	4.1%	・	(5.1%)
九州 沖縄	40 福岡県	29	15	・	(15)	20	9	・	(9)	1,487	1,169	・	(903)	3.9%	3.4%	・	(4.7%)
	41 佐賀県	<10	1	・	(2)	0	1	・	(1)	75	90	・	(88)	0.2%	0.3%	・	(0.5%)
	42 長崎県	0	1	・	(1)	<10	0	・	(0)	145	108	・	(66)	0.4%	0.3%	・	(0.3%)
	43 熊本県	<10	1	・	(1)	<10	1	・	(1)	323	196	・	(133)	0.8%	0.6%	・	(0.7%)
	44 大分県	<10	4	・	(5)	0	0	・	(0)	133	135	・	(96)	0.3%	0.4%	・	(0.5%)
	45 宮崎県	0	0	・	(0)	<10	2	・	(3)	168	130	・	(104)	0.4%	0.4%	・	(0.5%)
	46 鹿児島県	<10	4	・	(3)	<10	3	・	(3)	265	217	・	(155)	0.7%	0.6%	・	(0.8%)
九州・沖縄ブロック計		50	29	・	(30)	51	18	・	(19)	3,244	2,504	・	(1,838)	8.5%	7.3%	・	(9.6%)
合計		416	220	・	(195)	427	196	・	(170)	38,166	34,337	・	(19,147)	100%	100.0%	・	(100.0%)

「前回新規」とは、感染症法の報告に記載されている「前回新規」を示す（エイズ動向委員会への前回報告の「今回新規」の値ではない）。

「今回」のNDB集計：2022年10月～12月の新規患者（抗HIV薬処方開始）

●2013年4月1日から2022年9月30日までに抗HIV薬を処方されていない

かつ2022年10月1日から2022年12月31日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。

「前回」のNDB集計：2022年7月～9月の新規患者（抗HIV薬処方開始）

●2013年4月1日から2022年6月30日までに抗HIV薬を処方されていない

かつ2022年7月1日から2022年9月30日までに新たに抗HIV薬を処方された患者。

「累計」のNDB集計：2013年4月～2022年12月の通院患者（抗HIV薬処方）

●2013年4月1日から2022年12月31日までに1回以上抗HIV薬を処方された患者数

●抗HIV薬は別表のマスタ（表8）を使用した。

●報告地：医療機関所在地（NDB、感染症法）

●〔居住地〕：最近数年間の主な居住地（感染症法のみデータあり）

●報告地率・〔居住地率〕：全国を100%とするその地域の割合

●「・」はNDBからは集計困難な項目。

要点：表 8

● 表 8 抗 HIV 薬一覧（マスタ）

この提出資料では、HIV 感染者・エイズ患者の定義として、「抗 HIV 薬の処方を受けている患者」を採用した。一般的には抗 HIV 薬は HIV 感染症以外には使用されないと考えられており、また、抗 HIV 薬を処方して診療報酬請求を行わない例があるとも考えにくいためである。ただし、HIV と診断されつつ抗 HIV 薬の処方を受けていない患者が、今回の NDB 集計から除外されている点は留意が必要である。

なお、2020 年 1 月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して抗 HIV 薬であるロピナビル／リトナビル配合剤（カレトラ）、ネルフィナビルメシル酸塩（ビラセプト）が処方された影響で、この期間の HIV 感染者・エイズ患者数が一時的に変化していることが予想された。研究班では、本件についての検討を進め、今回の集計値はすべて、COVID-19 への抗 HIV 薬処方例を除外した集計としている。

(表8) 抗HIV薬一覧 (マスタ)

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの含量	配合剤
620005140	レトロビルカプセル100mg	AZT(ZDV)	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
610443081	ヴァイデックスECカプセル125 125mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	125	0
610443082	ヴァイデックスECカプセル200 200mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620000425	エビビル錠150 150mg	3TC_150mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	0
620000426	エビビル錠300 300mg	3TC_300mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
610412192	ゼリットカプセル15 15mg	d4T	サニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	15	0
610412193	ゼリットカプセル20 20mg	d4T	サニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	20	0
621144201	コンビビル配合錠	COM	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621144201	コンビビル配合錠	COM	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	1
620004998	ザイアジェン錠300mg	ABC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
620001903	ビリアード錠300mg	TDF	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
621657001	エプジコム配合錠	EZC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
621657001	エプジコム配合錠	EZC	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620002488	エムトリバカプセル200mg	FTC	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
610421341	ピラミューン錠200 200mg	NVP	ネビラピン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620006943	ストックリン錠600mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	600	0
621932401	ストックリン錠200mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620009086	インテレンス錠100mg	ETR	エトラビルン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
622149101	エジュラント錠25mg	RPV	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	0
622388001	コムプレラ配合錠	CMP	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622388001	コムプレラ配合錠	CMP	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622388001	コムプレラ配合錠	CMP	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620004975	クリキサンカプセル200mg	IDV	硫酸インジナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620003516	インビラーゼカプセル200mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620004347	インビラーゼ錠500mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	500	0
621143701	ピラセプト錠250mg	NFV	メシル酸ネルフィナビル	プロテアーゼ阻害薬	250	0
621143601	ノービア内用液8% 80mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	80	0
622054801	ノービア錠100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	ロビナビル	プロテアーゼ阻害薬	80mg/mL	1
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	20mg/mL	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	ロビナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	5	1
620000454	レイアタツカプセル150mg		硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	150	0
620000455	レイアタツカプセル200mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620002465	レクシグファ錠700 700mg	FPV	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	プロテアーゼ阻害薬	700	0
620005884	ブリジスタ錠300mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	300	0
622276701	ブリジスタナイーブ錠800mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	0
622403501	ブリジスタ錠600mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	600	0
620007815	アイセントレス錠400mg	RAL	ラルテグラビルカリウム	インテグラーゼ阻害薬	400	0
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	コビススタット	CYP3A阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
622336201	デビケイ錠50mg	DTG	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	0
622408801	トリメック配合錠	TRI	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	
622408801	トリメック配合錠	TRI	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
622408801	トリメック配合錠	TRI	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620009087	シーエルセントリ錠150mg	MVC	マラビロク	CCR5阻害薬	150	0
621930301	ブリジスタナイーブ錠400mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	400	0
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	コビススタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	コビススタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エムトリシタビン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	フマル酸テノホビルアラフェラミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
610409330	ハイビット錠0.375	ddC	ザルシタビン	2008年3月販売中止	0.375	0
610432038	ノービア・ソフトカプセル100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
622626001	アイセントレス錠600mg	RAL	ラルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	600	0
622647301	オデフシイ配合錠	RPV/TAF/FTC	リルビリン/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩/ エムトリシタビン配合	NNRTI/NRTI配合剤	25mg/25mg/200mg	1
622660701	ジャルカ配合錠	DTG/RPV	ドルテグラビル/ リルビリン配合剤	INSTI/NNRTI	50mg/25mg	1
622702901	ドウベイト配合錠		ドルテグラビルナトリウム/ラミブジン	インテグラーゼ阻害薬/核酸系逆転写酵素阻害剤	50mg/300mg	1
622660501	ビクタルビ配合錠	BIC/TAF/FTC	ビクテグラビル/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩/ エムトリシタビン配	INSTI/NRTI配合剤	50mg/25mg/200mg	1
622702801	ビフェルトロ錠100mg		ドラビリン	NNRTI	100mg	0
622699101	ラバミコム配合錠「アメル」		ラミブジン/ アバカビル硫酸塩	核酸系逆転写酵素阻害剤/核酸系逆転写酵素阻害剤	300mg/600mg	1
622683501	シムツーザ配合錠		ダルナビル エタノール付加物/コビススタット/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩配合錠	プロテアーゼ阻害薬/CYP3A阻害薬/核酸系逆転写酵素阻害剤/核酸系逆転写酵素阻害剤	800mg/150mg/200mg/10mg	1

●上記の薬剤を1回以上処方された患者をHIV感染者・エイズ患者として集計した。